教職課程広報誌

教職課程センターだより 第３２号

発行日　2024 年 11 月２１日

巻頭言

教職課程センターのさらなる活用をめざして

教職課程センター副センター長　齋藤一晴

教室に銃弾や砲弾が飛んでこない国が世界にどれだけあるか考えてみる。世界にある 200 の国や地域で、そうした国は数えるほどしかないのかもしれない。ウクライナとロシア、パレスチナとイスラエルなどでは戦争や紛争が継続している。遠い存在のように思えるかもしれないが、ロシアは隣国であり、報道によれば北朝鮮の兵士がロシアからの協力要請を受けて戦闘に参加するという。日本にとって戦場や銃弾、砲弾は決して他人事ではなく、日常のすぐそばで生じていることになる。

ウクライナとロシアの戦争は、NATO とロシアの緩衝材としてウクライナを位置づけるアメリカと、NATO の拡大を望まないロシアという対立構図である。アメリカや NATO は、ウクライナに緊張や対立を押しつけて、武器を供与しながら自分たちの代わりにロシアとの戦争を強いている。

イスラエルとパレスチナも、イスラム圏とアメリカの対立を一部の地域に押しつけ、凝縮することでその拡大を「防止」しようとしている。そうした「しわ寄せ」は紛争や戦闘の「防止」どころか、憎しみの連鎖を生み続けている。日本で暮らしている私たちは、そうした戦場や銃弾、砲弾をなぜ遠い存在に感じるのだろうか。

日本の周辺に冷戦期に存在した外交や軍事に関わる緊張は、冷戦終結後も分断されたままの朝鮮半島や中国大陸と台湾といった両岸問題にいわば押し付ける形で日本で暮らす私たちは「平穏」な生活を維持してきた。一見、「平穏」であっても、それを維持するために沖縄には米軍基地が半永久的に駐留しており、沖縄だけでなく日本全国の米軍基地とその周辺で様々な事故や環境破壊が生じてきた。つまり、国内の一部にしわ寄せを強いることでその他の地域や人々の生活を「平穏」に維持してきたことになる。銃弾や砲弾ではないものの米軍機が学校や大学のキャンパス内、住宅地に墜落して死傷者が出たことを知らない、もしくは授業のなかで習わない現実がある。

日本の学校、教室に銃弾や砲弾が飛んでこないと考えている人々は、本来、向き合うべき現代社会の諸課題に向き合うことなく、他者や他地域に課題を押し付け、しわ寄せすることで平和を語り、また平板な「戦争の脅威」を子どもたちに伝えていると書くと言い過ぎだろうか。まして、朝鮮半島の分断、両岸問題、沖縄の米軍基地の問題は、日本の戦争や植民地支配と関わって歴史的に生み出されきたものであり、そうした戦前の暴力や支配、そして戦後への連続性を意識できていないことになる。みずからが「しわ寄せ」の担い手であることに疑問を持たない者が、現代社会で子どもたちが強いられている「しわ寄せ」を理解することができるだろうか。

教職課程センターは、面接練習や願書の書き方、内容のチェックといった採用試験に関わる内容だけでなく、教材研究や教員になってからどうやって自分自身を成長させていくかを模索する場にする必要がある。また、授業では議論したり同年代の意見を聞くことが少ない現代社会が抱える諸課題を語り合う場にしていく必要があるだろう。そうすることで「しわ寄せ」を生み出すことに加担したり、無意識のうちに「しわ寄せ」を他者に強いていることを回避する術を学び合えるのではないだろうか。

３年生面接対策講座（６月）

教育・心理学部　子ども発達学科　学校教育専修３年　杉林優雅

○参加した目的

私が本講座に参加した理由は、教員採用試験に向けた対策を早期に始めたいと思っていたところに、伊藤先生が開講してくれている新・教友ゼミにて、本講座の紹介があり、一次試験対策を始めたことに伴い、面接対策も始めようと思ったからである。

○参加して勉強になったこと

本講座は教員採用試験の説明と大学の先生方との面接練習が行われた。私は個人面接の練習に参加したが、他にも集団討論の対策、場面指導の対策、模擬授業の対策を本講座の中で取り組むことができる。今回は参加者が少なかったため、面接対策を丁寧にやっていただいた。

面接練習では、１対１の面接を大学の先生方に指導を受けながら取り組んだ。面接で必ず聞かれる「特別支援学校の教員を目指した理由」「受験する自治体の志望理由」「理想の教師像」「自己 PR（自分の強み）」の４つの質問をもとに面接練習をした。いきなり面接形式で練習するのではなく、この４つの質問に対してどのように答えるか、それを文章に書き出すということをおこなった。その後、自分で考えた文章をもとに、先生と実際の面接形式で練習した。そのなかで私は先生に「内容は良いが、エピソードをまとめる必要がある」と指導を受けた。話す内容がまとまっておらず、面接でもとめられる端的に答えることができていなかった。また受験する自治体の志望理由において、自治体の教育理念とからめながら話すことができると良いことを知ったため、対策として自治体の教育理念にも目を向けるとよりよいと思う。私が面接練習を通して１番難しいと感じたこと、それは自分の長所・短所を答えることである。私はなかなかうまく答えることができなかった。そのため先生自身はどのように答えるのかと尋ねたところ、「人の名前を覚えているところ」「人の話をよく覚えているところ」の２つを例として挙げていただいた。この面接練習は、スポーツ科学部の水野先生とともにおこなっており昨年度、水野先生の講義を受講していたときにお話させていただいたことを、覚えていただいており、そのエピソードから先生自身の長所・短所としてお話してくださった。普段の生活の中から、本当に何気ないところに自分の長所・短所は隠れているというふうに感じた。自分の長所・短所をある程度、答えられるようになる、まとめることができれば、必ず聞かれる質問として挙げた理想の教師像であったり、自己 PR（自分の強み）であったりというところを面接で聞かれたときに、わかりやすい言葉で、端的に答えることができるようになると思う。また、ボランティアやアルバイトでの経験で学んだことも面接の中で活かすことができるため、そのエピソードもまとめて話をするとより中身のある話をすることができる。

これまで面接においてどのようなところに目を向けて話を組み立てていけば良いのかという話をしてきたが、面接で１番見られるところは一緒に働きたいかというところである。誠実さ、謙虚さを大事にして、面接試験に臨むことも大切であるということを学んだため、この点も大切にして、面接練習に励んでいきたい。

○今後について

本講座で学んだことを活かし、面接対策を続けていきたい。面接対策用のノートを作り、内容を固めていくということにこれからは取り組んでいきたい。また、面接対策講座だけではなく、教員採用試験の講座に取り組み、来年の教員採用試験に臨みたい。大学の先生方や友人などと、面接練習をするなど、残りの日々を有意義に過ごしていきたい。

４年生教採対策講座①に参加して

教育・心理学部　子ども発達学科　学校教育専修４年　冨田晴大

参加しようと思った動機

私が教員採用試験対策講座に参加しようと思った動機は、教員採用試験のために何をすれば良いか分からなかったからです。教員になるためには教員採用試験に合格しなければいけないことは知っていましたが、そこではどのような問題が出題されるのか全く知りませんでした。大学の友達も教員採用試験について詳しくなく、インターネットや友達からの情報だけで教員採用試験の対策をすることは相当難しいと感じていました。そのため、教員採用試験対策を専門としている方の講座を受けて、教員採用試験に対する自信をつけたいと思い、この講座に参加しようと決めました。

参加した感想

教員採用試験対策講座に参加してみて、まず教員採用試験に関する基本的な情報を知ることができました。教員採用試験に対して何も知らなかった自分からするととても助かりました。次に、教科ごとに何を勉強すれば良いのか講師の方が教科ごとに教えて下さりました。私は各教科のどの範囲まで勉強すれば良いのか全く分かっていなかったので、「数学はこの単元を」や「社会は歴史のこの範囲を」などのように勉強するべきところだけ切り取って講座をしてくれたのは良かったです。また、授業ごとにプリントがあるため、講座のときは別のノートにメモをする、講座以外の自習のときはプリントを使って勉強するというように使い分けをして勉強できるのはありがたかったです。

教員採用試験本番も講座でもらったプリントやメモを持っていき、残り短い時間の中で見直していました。教員採用試験対策講座を受ける前は、残りの日数で間に合うのか、講師の方の話す内容は分かりやすいかなど多くの心配がありました。しかし、実際に教員採用試験対策講座を受けてみると、教員採用試験本番までに余裕を持って計画されていたり、いつも分かりやすい講座をしてくれたりする講師の方ばかりでした。また、オンデマンド授業のように自分の携帯で何度も講座を見返すことができたのが良かったです。教員採用試験対策講座に参加したことによって、教員採用試験に対する悩みの多くが無くなりました。また、どのように勉強していけば良いのか具体的に教えてくれるため何も分からなかった自分からしたらとても助かりました。

採用後、どのような教師になってみたいか

採用後、自分はどんなことでも子どもたちから相談される教師になりたいです。近年はスクールカウンセラーなどの外部の方々が多いですが、まだまだ気軽に相談できないのではないかなと思っています。そのため、日頃から関わっている教師に相談することができれば子どもたちにとっても教師にとっても悩みを瞬時に知ることができるというメリットがあります。学校内外を問わず子どもたちがどんなことで悩んでいるのかを知ることはとても大切だと思うので、私は子どもたちがどんなことでも相談できる教師になりたいです。

４年生教採対策講座②に参加して

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修４年　藤井美帆

二次試験直前対策講座では、はじめに全体で面接のポイントを確認した後に、７０分×２の面接練習をする。面接練習は、個人面接、集団討論、場面指導、模擬授業から希望を出せる。筆者は、個人面接と場面指導を受けた。なぜ、講座に参加をしたのか。筆者は、面接練習を仲間内で行なったり、大学教員にお願いし練習したりしてこなかった。対面で実践的に面接練習をする機会が、この講座しかなかったからである。

参加をして良かったところを紹介したい。筆者が感じた利点を厳選して挙げていく。

・スーツ姿や入退室を行うことで、マナーを確認できる！
・採用試験が迫っているという実感が湧き、モチベーションに繋がる！
・提出した面接シートの内容を踏まえて、練習ができる！
・同じ自治体や校種の仲間に会うことができ、情報共有もできる！

面接対策の講座は、面接の内容を深めること、大人相手に練習をすることができる。さらに、上記に挙げたことも、自身への成長に繋がる。意外に思うかもしれないが、採用試験が近づいていても、思いのほか実感が湧かない。そういう人は多いと思う。そういったときに、スーツでピシッとして、本番さながらに同じ時間面接を行う。そろそろラストスパートをかけなければと鼓舞することになる。時期的に、二次直前ということで、面接シートがある状態である。面接シートに書いたアピールと面接が一致していなければならない。しかし、筆者は、面接シートの内容を把握していないまま、面接練習に臨んだ。受け答え自体はできたが、面接シートの内容を膨らませるといったことができなかった。面接をしてくれた先生には、キーワードだけでも頭に入れておくとよいと指導を貰った。また、愛知県ということもあり、同じ校種や自治体の仲間と一緒のグループになった。そこで、スーツのジャケットどうする？ どのルートで行く？ というように確認をすることができた。二次試験は、集合時間がバラバラになることが多い。少しでも不安を減らすことができて、筆者は大満足である。

講座の面接は、志望動機といった定番や教採の報告集の冊子を参考にしたものが多い。先輩方の記録に感謝しながら、傾向を探ったり上手に活用したりする。特に面接講座の場面指導をしたとき、報告集のありがたみを実感した。報告集は、面接対策の必須アイテムだ。

これを読んでいる方に、二次試験直前対策講座に限らず、面接講座は可能な限り参加し、回数を重ねることをおすすめする。多くの先生を相手に面接練習でき、様々な大人を相手に場数を踏むことができる。大人だけでなく、学生同士にも関わる。面接講座は他の学生と同じ教室で行うため、「私だったら、こう答える」などの意見が共有でき、持ちネタも増える。特に場面指導は、対策が難しく、色々な場面を知ることが必要だから、可能な限り参加してほしい。私は、講座に参加して良かったと思うことばかりだ。採用試験に向けて、仲間と協力しながら頑張ってください。

合格体験記（愛知県・小学校）

教育・心理学部 子ども発達学科 学校教育専修４年　松岡奏翔

ふたつの夢を追って

私は今回、大学院と愛知県の教員採用試験を受験し両方に合格することができ、この経験を書くことで、今後教員や大学院を目指す人たちの参考にしていただければと思う。

教員採用試験に合格するために私は、できることを最大限やることを心がけました。筆記試験の対策として、大学で募集していた受験対策講座を受講しました。対策講座を受講したおかげで受験自治体の問題の傾向を知ることができただけでなく、定期的に勉強する習慣やこれまで学んできたことを思い出すことができました。また、自身でも受験自治体の過去問題集を購入し何度も解き直しました。そのおかげで傾向を覚えることができ、解き直しを行ったことで効率的に覚えることができ最終的に過去問をミス無く解き進めることができるようになりました。

面接対策は大学が行っている対策講座に欠かさずに参加しました。対策講座では、個人面接よりも場面指導を多く行いました。場面指導はこれまでやったことがなかったことと受験する自治体で必ず行われていたので特に力を入れて練習を行いました。また、面接練習に向けて回答をノートにまとめたものをゼミの先生などに添削してもらうだけでなく、友達たちとも面接練習を行ったことで精度を高めていきました。

本番では今までやってきたことを信じて問題を解き進めていきました。面接では前日に高熱がでて当日まで引きずりましたが、これまで多く練習を積み重ねていたので今までやってきたことを思い出し無事に終えることができました。本番は本当に何が起こるか分からないので入念に準備することをおすすめします。

大学院では面接試験だけであったため、入学後の研究計画を入念に作りました。試験では自身への質問よりも研究内容への質問がメインであり、はじめは研究内容をプレゼンテーションするものであったため準備を入念に行いました。大学院は個々で日程や試験方法が異なるため自身が受験する大学院について下調べを行い推薦等使う場合は早めに学生課に相談をすることをおすすめします。

また、これまでの受験と違い身近に仲間がいないため相談相手やモチベーションを保つことが難しい面があります。私自身もモチベーションを保てないときや悩むことが多くありました。その時に私はゼミの先生に相談し研究概要の書き方や添削等をしていただき無事に合格することができました。その為、分からないことがあればゼミの先生やキャリア開発課での相談など、大学生であるが故の強みを生せるよう自分にできることを最大限活用するのがいいと感じました。

以上が今回の受験を経て私が経験したことになります。これから教員や大学院を目指す方々の参考になればと思い書かせていただきました。来年度多くの人が自身の目指す道を切り開けることを願っております。

合格体験記（岐阜県・特別支援学校）

教育・心理学部　子ども発達学科　学校教育専修４年　河合優菜

１．１次試験対策

１次試験の勉強は１月のお正月明けから始めました。最初は何をすれば良いか分からなかったので、9 月頃に購入していた『２０２５年度版　岐阜県の教職教養過去問　協同出版』と『２０２５年度版　岐阜県の特別支援学校教諭過去問　協同出版』を使用し、過去問の３年～５年分を満点になるまで何度も解きました。ただ解くのではなく、岐阜県ではどのような問題が出題されているのかを把握しながら解くことを心掛けました。

３月頃から１次試験の直前までは、ＣＤＰ講座で購入した『実践問題集　教職教養　資格の大原』や『２０２５年度版　全国まるごと過去問題集　特別支援学校教諭　協同出版』、『小学校全科の演習問題　２０２５年度版　時事通信社』を中心に問題を解きました。岐阜県の過去問をもとに、岐阜県が出題してきそうなところや、自分の苦手な分野を重点的に取り組みました。岐阜県では専門教科の中に一般教養がありますが、小学校教諭を受ける人と同じ問題であることが多いため、一般教養の問題集ではなく、小学校全科の問題集を使用していました。模試も２回受けました。

私は１人で勉強することが苦手だったため、常に友達と勉強をしていました。１２号館の５階にある教職課程センターや同じく５階にある自習室で主に勉強をしていました。「隠れ家だと！」思っていたらいつの間にか友達がそこで勉強していることが多くなりました。私はそれが嬉しくて、みんなが頑張っている姿を見ながら勉強をしていました。

２．２次試験対策

○小論文

小論文は４回練習しました。私は文章を書くことが苦手なので、４回しか練習できませんでしたが、たくさん練習することが大切だと思いました。キャリア開発課で『２０２５年度版　岐阜県の論作文・面接過去問　協同出版』を貸していただき、文章を書くのが苦手な私でも書けそうなものから練習しました。４回の練習の中で、序論・本論・結論を意識することや、６０分でやりきることを意識しながら行いました。書いたものは、ゼミの先生である松下先生に添削してもらいました。

○個人面接

まずは、教員採用試験対策講座の面接指導に申し込んで練習してきました。面接対策講座に合わせて、自分自身で面接ノートを作成し、伝えたいことをまとめてから練習を行いました。面接ノートには、質問内容とそれに対しての答えを、キーワードを書きだしながら文章化し、書いたことをそのまま覚えるのではなく、練習していく中でキーワードを覚えていくことを心掛けました。先生方にアポイントをとったり、友達に面接練習を頼んだりもしました。

○プレゼンテーション面接・模擬授業

１次試験が終了した後、本格的に練習を始めました。同じ岐阜県の特別支援学校教諭を志望する人で集まり、何度も練習しました。また、伊藤先生が過去問を参考にして問題を作ってくださったので、一緒に練習をしました。過去問は、過去の合格体験記や岐阜県の教員採用試験の要項に載っていると思います。沢山練習することで時間の感覚や、プレ面・模擬授業のやり方を身に着けることができます。

合格体験記（岐阜県・特別支援学校）

スポーツ科学部　スポーツ科学科４年　山田千晴

なぜ特別支援学校の教員になりたいと思ったのか

特別支援学校の教員になりたいと思ったきっかけは、特別支援学校の教員として働いている母の姿を見ていたことでした。母が、忙しくしながらも楽しそうに子どもの様子を話している姿はいきいきとしていて、とても魅力的に感じました。私も特別支援学校で働きたい！特別支援学校の教員になりたい！と思い、日本福祉大学に入学しました。授業の中のビデオや特別支援学校へ見学に行き、先生方が愛情を込めて作った教材で子どもたちが楽しそうに学んでいる姿を実際に見ることができました。大学での学びは、特別支援学校の教員になりたいという気持ちがさらに大きくなるものでした。この思いが、教員採用試験に向けてのモチベーションとなり、長期戦を乗り越えることができたことに繋がっていると感じています。

教員採用試験に向けて

上にも記したように、「どれだけ教員になりたい気持ちがあるか」が勝負になると思います。教員採用試験の勉強は、決められている時間があるわけではないので、どれだけ自分がやるかです。私自身、高校までしっかり部活動に明け暮れており、大学に入学したのもスポーツ推薦でした。そのため、一切勉強をする習慣がついておらず、こんなに長期間一生懸命に勉強を継続したのは、この教員採用試験に向けての勉強が初めてでした。

3年生の後期が始まった頃から本格的に勉強を始め、“質より量”を意識して、とにかく問題を解きまくり、傾向を掴むようにしました。筆記試験の対策は、自分に合った勉強方法が見つかると思うので、それぞれのやり方で進めていくと良いと思います。（ちなみに私は、全国丸ごと問題集の中で、岐阜県富山県の出題傾向の高いものを厳選して行っていました。）　筆記試験は自分自身がやるかですが、一緒に頑張る仲間の存在がとても大きかったです。お互いにノートの裏にメッセージを書いて励まし合ったり、あの子も頑張っているから私も頑張ろう！と鼓舞し合ったりしながら、勉強を行っていました。確かに言えることは、やった分だけ力が付くということです。このことは、筆記試験だけではなく、面接や模擬授業、場面指導の対策にも言えることです。採用試験を受ける仲間、先生方に協力していただき練習をすることで、二次試験の対策を行いました。今の時期に、ボランティアなどに参加し、経験を重ねるのも良いかもしれません。二次試験対策の期間で、面接用のセリフだけではなく、自分の目指す教師像、子どもに対する思いなど、積み上げることができると良いと思います。自分の中で積みあがったものがあると、予想外の質問や問題が出たときにも問題なく対応することができます。

合格、不合格の結果も大事ですが、この教員採用試験に向けての期間を通して、自分自身が成長できたと思えることも大切だと感じています。できる限り努力して、本番に自信をもって臨めるよう頑張ってください！これだけやってもだめだったなら、力不足だったんだな、来年頑張ろう！と思えるくらいまで、やりきれたら結果はついてくると思います。応援しています！

合格体験記（愛知県・高校英語）

国際福祉開発学部　国際福祉開発学科４年　柳田祐弥

教職課程に登録している学生の皆さんは、教員採用試験の勉強方法や面接対策など、どうすればよいか迷っている方が多いでしょう。教採の対策方法は様々あるため、私の対策方法はあくまでも参考程度に読んでいただけると幸いです。

1）教職教養・一般教養の対策方法

対策を始めようと行動を始めたのは 3 年生の後期からです。大学側が対策講座などを本格的に始めるので、ホームページの掲示板の確認など、常にアンテナを張って、できることから始めましょう。

次に、できる限り多く過去問を解きましょう。受験する自治体の過去問を集めて実際に解き、教採の問題に慣れること、そして出題傾向を学んで類似する内容を学習することを意識しましょう。

2）小論文の対策方法

小論文は、序論・本論・結論で構成されているので、このように記述することは大前提です。ですが、いきなり問題文を読んで論文を書くことは非常に難しいと思います。私は、論文を書き始める前に 5 分から 10 分ほど時間を設け、ブレインストーミングを行いました。一つのテーマから考えられることをできる限り書き込んで、その中から特に書きたい内容をいくつか抽出し、それを基に論文を書き上げました。ある程度考えをまとめてから書き込むと、文章も読みやすくなると思いますので、対策練習をする時には取り入れてみてください。

3）専門教科の対策方法

私の専門教科は英語ですので、それ以外の教科の方は飛ばしていただいて構いません。私はほぼ毎日英語に触れることを意識しました。それは、勉強という形ではなく、音楽や動画サイト、ネットのニュース記事などを自発的に読んだり聞いたりして、日常的に英語に触れることを意識しました。日常的に英語を使用することで、少しずつ英語力が向上することが期待できます。

もちろん、過去問も解いて出題形式に慣れることも忘れないでください。

4）面接の対策方法

大学が行う面接対策講座に積極的に参加しましょう。自治体によって試験内容が違うため、申し込みをする上で一度受験希望地の試験内容のチェックをしましょう。

面接練習は一度だけで上達するものではありません。回数を重ねると、徐々に受け答えがスムーズになっていきます。本番で緊張しないよう、対策講座に申し込んで回数を重ねて、面接に慣れていきましょう。

＜まとめ＞

私は愛知県の他に、浜松市と神奈川県を受けたのですが、その体験を踏まえて私が伝えたいことは、とにかく対策はできる限り早く行おうということです。いきなり参考書を開いて勉強するのは難しいので、初めは少しずつ勉強を始めて勉強する癖をつけてください。

そして、3 箇所ほど自治体を選んで受けることをお勧めします。私は浜松市の教採を受けて、試験や面接の雰囲気を知ることができたので、その後の対策に活かすことができました。

最後になりますが、試験前日までに提出物や身の回りの準備を完了させることを忘れないでください。

２０２４年度 教員採用試験を終えて

教職課程センター副センター長　齋藤一晴

『共同出版・教職課程レポート』の編集長、中西茂は『共同出版　教職課程レポート』共同出版（vol.06　2024 年秋号）のなかで、「失敗だった文部科学省の教員採用試験改革『早期化、複数回化・複線化、共通問題化』を徹底分析する」と題したレポートを掲載している。それによれば、「3 年生以外の志願者は 66 自治体中 56 自治体で減」・「小学校では新たに 2 倍を切った自治体も」生じており、教員を確保しようとする様々な教員採用試験改革は、失敗だったと断言している。

さらに『共同出版　教職課程レポート』編集部が自治体に行ったアンケート調査によれば、「文部科学省による教員採用試験の一連の政策に対する考え」について、「志願者の増加にはつながっていない」・「検証も行わない段階で更なる早期化を要望されたことについては疑問を感じる」・「教員の処遇改善を図っていかなければ、受験者の増加は見込めない」という回答が寄せられている。いずれも批判的な内容であり、教育現場の最前線にいる教員たちの本音が垣間見れる。

上述したような状況のなかで、今年も学生たちが教員採用試験に振り回されることになったことは容易に想像できる。先輩たちが残した教採対策のノウハウがうまく継承されず、同じ目標を持った仲間たちと切磋琢磨しながら教員採用試験の準備を進めることもできず、いわば「個人戦」でバラバラと教員採用試験を受験している印象を受けた。来年度はさらに早期化するという。来年度の教員採用試験とその対策には、これまで以上の対応が求められることになるだろう。

今年度、教員採用試験の合格者数は、前年度と比べると若干のマイナスとなった。なかでも愛知県および名古屋市での採用者数は特別支援学校に採用された学生以外は大幅に減少した。多くの場合、二次試験、つまり面接試験（集団面接を含む）で不採用になっているところに特徴がある。学生たちが自分なりの教育観にもとづいた言葉を表現するためには、一定程度の時間が必要だ。大学における 4 年間の学びや教育実習の経験を総括する時間が無いまま面接試験にのぞまざるをえない状況があるように思う。また、形式的な教採対策や対策本に書かれたことを面接で応答するだけでは合格は難しいことがうかがえる。

近年、教採ＷＧ（教職課程センター・キャリア開発課・学務部・教職課程事務室）は、教採対策講座を増加させており、ほぼ月 1 回のペースで何らかの対策講座を実施している。しかし、参加者は急速に減少しておりこれまでの対策講座のスタイルや内容では学生のニーズに対応しきれていない現状がある。来年度以降、教員採用試験の早期化に対応しながら学生のニーズにマッチした教員採用試験の対策講座を行っていくために、今年度の教員採用試験の結果の分析を進める必要がある。また、前述したように面接試験で少なくない学生が不合格になっていることをふまえると、試験対策だけでなく日頃の授業のなかでどれだけみずからの教育観や現代社会認識などを深めることができたかも重要になってくるだろう。

来年度も学生たちがみずからの目標を達成できるように、関係部署と連携しながら支援を続けていきたいと考えている。

卒業生からのたより

経済学部　経済学科　２０２３年度卒業
長野県公立中学校講師　河合知之

これほど学んで楽しい仕事が他にありますか？
一緒に教育の未来を考えましょう！

１．教員１年目に感じていること

私は今、長野県内の公立中学校で常勤講師として働いています。半年働いた中で感じていることは、「想像通り忙しいが、想像以上に楽しい」ということです。

ニュースの報道などにもある通り、残業はとても多いです。授業をつくる前に、行事のことや会計のことなど、次から次に仕事が降ってきます。想像通り忙しい仕事です。しかし、それを上回る楽しさがあります。

〇私が楽しいと感じること

１．子どもたちと共に学ぶ楽しさ

子どもたちと一緒に笑ったり、子どもたちから新たな気付きを得たり、成長する子どもの姿を見て勇気をもらったりと、子どもたちから貰うエネルギーで生きていると日々感じています。

２．自分のスキルを磨く楽しさ

同僚の先生から学んだことを次の日から実践し、リアルタイムで子どもの反応を見ることができる点では、自分自身のスキルアップを目指しやすい仕事です。

３．同僚の先生方と教育について語り合えること

職場によるかもしれませんが、熱い思いを持った先生たちと、授業や教育のあり方を語り合う放課後もとても楽しいです。

２．大学時代にやっておくべきこと

「大学生のうちにしておいた方が良いことは何かありますか？」という質問は、私も大学生の時に沢山していました。結論、「沢山の経験を積むこと」だと思います。先輩方にも、色んな所に旅行に行け！学習支援や塾などで子どもと触れ合う経験をしよう！熱中する何かに没頭するのも大事！など様々なアドバイスを受けました。全て正解です。子どもと触れ合っておくことも勿論大事ですが、他の飲食のアルバイトも大事、「お金を稼ぐためにシフトに沢山入りました」だって良い経験だと思います。

３．　後輩へのメッセージ

「教員になるために勉強しない」ことが大切だと思います。皆さんは、日本福祉大学の講義にどのような思いで参加していますか？「教員になるために、この講義って本当に必要なの？」と考えないで欲しいです。教員採用試験に合格するために必要な授業は経済学部にはありません。しかし、“どうすれば子どもが幸せになるか”を考える材料として必要な講義は山程あります。

最近、私は授業時間を使って、脳科学による勉強法や定期テストの勉強法、睡眠の大切さなどの豆知識をどんどん教えています。分かりやすい授業も勿論大切ですが、自分の力で勉強できる力をつけることが何より子どもの“生きる力”だと考えるようになりました。勉強した経験のある先生の話の方が、説得力があると思いませんか？本気でノートを取ったことのない先生が、黒板をぎっしり書いて子どもに覚えろと言ってやる気になりますか？「苦手なことを勉強する子どもの気持ちってどんなんだろう」。もし、大学の講義を受ける意味が分からなくなっている人がいたら、こう思って講義に臨むのはどうでしょうか。

最後に、日本福祉大学の教職課程を履修している皆さんは、とても幸せです。周りに、学びが山程あるからです。是非、高い学費を払って入学している大学ですから、思う存分活用して下さい。応援しています！！

小学校の教員になって

子ども発達学部　子ども発達学科　２０２２年度卒業
長野県小学校教諭　関さくら

2022 年 3 月に大学を卒業し，長野県の小学校で働いて今年で 2 年目になります。今年は昨年のクラスを持ち上げ，5 年生の担任として，日々子どもたちと笑顔あふれる時間を過ごしています。

大学時代はコロナ禍ということもあり，思うように学生生活を送ることができませんでした。模擬授業もオンラインで行っており，教員として現場に経つことに対して大きな不安を抱えていました。

昨年の 4 月，子どもたちと初めて出合う日の私は前日から不安と緊張が消えず，ガチガチに緊張しながら 4 年生の担任として紹介してもらいました。教室で自己紹介をしたり，プリントを配ったりする時も手が震えてしまい，初日の私は 1 年間教師としてやっていけるか不安な気持ちが消えないままのスタートでした。

そんな私が教師として無事 1 年間過ごせたこと，2 年目も楽しく過ごせていることはクラスの子どもたちのおかげです。困っていると「手伝います！」と声をかけてくれる姿や，どんな学習にも目をキラキラさせて楽しんで取り組んでくれる姿に，たくさん元気をもらいました。特に 3 学期では，1 学期に比べて，考えの表出に自信がついた子どもたちの姿を多く見ることができました。どんどん成長する子どもたちを，近くで見ることができる教師って幸せだな～と思えるようになりました。担任として，子どもたちと一緒に過ごせたことが，私自身の成長につながりました。

今年は，中学社会科の免許を持っていることもあり，学校を飛び出し，郡の社会科研究会で研究授業を行う機会をいただきました。昨年は教科担任制で社会の授業を行っていなかったので，今年初めて社会の授業ときちんと向き合うことができています。5 年生の社会は内容も盛りだくさん。教材研究も追いつかず，4 月 5 月の社会は，課題に対して調べてみよう！と教科書や資料集を見る授業を行ってしまいました。子どもたちは素直なので，つまらない授業は「つまらない」と隠していても態度に出ます。そこで，周りの先生の力を借りながら，子どもたちが楽しい！と自主的に学びにむかえる授業づくりを考えていきました。

大学で『教科書“を”教える授業ではなく，教科書“で”学ぶ授業を』と学んだことを強く覚えています。教科書の内容をただ教えるだけ，覚えるだけの授業では子どもたちの心には響きません。教科書に書かれている内容をいかに子どもたちに身につかせたいのか考え，他人事の課題から自分事の課題へといかに持ってこられるかが大切なのだと，あらためて感じることができました。

この 2 年間で悲しい思いや切ない思い、悔しい思いも多く感じました。それでもやめずに過ごせているのは、大学生活の経験や教員になるまで、そしてなった後の周りの方々の応援のおかげです。コロナ禍の大学生活ではありましたが、思い返してみると成長する機会をたくさんいただけていたなと感じます。自分はまだまだ成長できるのだと感じられる毎日が、今はとても楽しいです。

在校生の皆さんが、教員になる夢を後押しできていたら幸いです。一人で頑張りすぎず、周りの人を頼りながら、楽しい大学生活を送ってください。

教員を目指している皆さんへ

子ども発達学部　心理臨床学科　２０２０年度卒業
岐阜県特別支援学校教諭　有本晶香

１．初めに

私は大学を卒業後、特別支援学校に勤務をして４年目になります。私が教員として働き始めたときには、憧れの職に就けてわくわくする気持ちと、忙しいと噂の教員になることに不安な気持ちもありました。学生の皆さんも同じように感じている人が多いのではないでしょうか。なので、今回は応援の気持ちを込めて、少しでも不安を和らげるお手伝いができたらと思い経験談をお伝えします。

２．１人で悩むなんてもったいない！

まず１番に伝えたいことは、周りの先生達を頼ってなんぼ！ということです。先生たちは忙しいかもしれませんが、さすがは教育のプロ。私たちのような駆け出しの教員のこともしっかり育ててくれます。相談すれば必ず時間を作ってくれますよ。さらに、相談後にも気にかけてくれたり、より専門的な知識を持った先生を紹介してくれたり、頼ることで学べることがたくさんあります。悩んだ時ほど、自分自身の視野を広げるチャンスです。私自身が先輩教員から学ぶことで子どもたちへの支援の充実に繋がりました。悩むことの多い仕事ですが、その分学びと助け合いにあふれた仕事です。学びに貪欲に、先輩教員をどんどん頼って、児童のためにレベルアップしていってほしいと思います。

３．ゆっくりで大丈夫！

願いを持って児童と向き合う中で、思い通りに行かなかいことや予想外のことばかりで焦ってしまうこともあると思います。そんな時は「急がば回れ」です。例えば時間に追われているのに児童が座り込んでしまった時、早くと急かすより、１曲手遊びをしてから誘ってみると案外あっさり歩いてくれるなんてことも。特別支援学校だと感覚過敏の児童が多いからこそ、感覚的な刺激を取り入れて気持ちを入れ替える時間も必要です。もしかしたら、通常学校でも通ずる所があるかもしれませんね。集団行動も大切ですが、教員同士で連携して、頼り、頼られながら目の前の児童ファーストで楽しくのんびりいきましょう♪

４．最後に

教員は、悩みの分以上に子どもたちの成長をたくさん見ることのできる魅力的すぎる仕事です。個性豊かな子どもたちとの日々は、嬉しいことも悩んだことも忘れられない思い出です。にぎやかな毎日が待っているので、前向きな気持ちで頑張ってくださいね！遠くから応援しています。私も皆さんに頼ってもらえる先輩教員になれるよう頑張ります！

教育実習体験報告

スポーツ科学部　スポーツ科学科４年　古賀育実

３週間の中学校の教育実習を通して、教員という仕事を間近で感じ、とても充実した実習をすることができました。とりわけ先生方の生徒との関わり方、職員室での仕事、生徒が下校した後の仕事を間近で見ることができ、多くのことを学ぶことができました。その中でも私は、次の２つのことを主に学んだと感じています。

（１）教員は常に子どもたちのことを考えて行動している。

３週間を通して強く実感したのは、教員が常に子どもたちのことを考えているということです。朝の学活では、「今日はこのようなことがあるので注意してください」や、職員室での仕事では、職場体験などの学校行事の電話など、常に子どもたちのことを考えていることがわかりました。一つの行事においても多くの事業者と打ち合わせをし、子どもたちがしっかりと体験することができるように準備をしていました。また、授業においても生徒から予想される意見や困り事を考え、それをどう対処するのか、どのように子どもから引き出していくのかまで準備をしていました。これも生徒のことを考えていないとできないことだなと感じさせられ、自分の考えの甘さを感じました。

（２）子どもの理解をしっかりしている

子どもの理解をするということは生徒一人ひとりを理解することです。生徒を理解する事は学級運営でも大切になってくるし、授業を組み立てていくうえでもとても大切になってきます。クラスにはどのような生徒がいるのか、学年にはどのような生徒がいるのかの把握をしていることでクラスによって授業の仕方を変えることができ、生徒に合わせた授業ができるのをこの目で見ることができました。また、授業以外に放課の時間や給食の時間に生徒とたくさん関わり、コミュニケーションをとっていました。生徒との時間を大切にしていくことで信頼関係ができていくと思いました。

この３週間で教員という職業を知ることができました。私は、教育実習を通して教員の大変さを知りましたが、教員という夢を諦めようとは思いません。実習校の先生方からどのような思いで仕事をしているのかを目の当たりにして、私も生徒のために何か力になりたいと強く思いました。たくさんの生徒と関わっていく中、授業をしていく中でこの子たちと一緒に過ごしたい、体育を好きになってほしいという気持ちが湧いてきました。

教育実習は、私の人生の中でとても大切で貴重な経験だと言えます。緊張する中でも自分の思いを授業に込めていくことができ、充実した３週間を過ごすことができました。

教育実習体験（高校）

社会福祉学部　社会福祉学科４年　山本桜子

私は、５月２７日から６月７日までの２週間大分県にある母校で教育実習を行った。

１週目の活動は主に､授業見学だった｡自分が授業実践を行う福祉以外にも英語や数学、古典の授業等も見学した。見学を通して、学んだ事は､「良い授業」をつくる為の教師の技術である。授業中生徒が発言しやすい雰囲気をつくる事や１人１人の意見を汲み取る等の工夫を行う事で、生徒が前向きに授業に取り組む事ができるという事を学んだ。また、生徒からの疑問に答える場面や雑談と授業の内容を結び付ける様子を見て、教材研究の重要性を改めて理解する事ができた。教師は、生徒の心に届く授業をつくる為に、日々勉強し続ける必要があるという事を学んだ。

２週目からは、授業実践が主な活動だった。放課後や空き時間、家でも何度も何度も授業の練習を繰り返し行った。授業を行う中での私の課題は、時間調整とその場に応じて臨機応変に行動する事が思うようにいかなかったという点だ。時間の調整が上手くできず、早く終わってしまう事や時間がオーバーしてしまう事が多くあった。また、生徒の発言を汲み取ってまとめる事や生徒からの疑問に対する返答など、準備していない事が起こると言葉に詰まっていた。私は、自分に自信がなく、フリートークをする事も苦手で、その場の状況を判断して発言する事がどうしてもできなかった。毎回、授業をするたびに、反省点がたくさん出てくるが、これは自分が授業としっかり向き合えていた証拠であるという事に気づいた。それに気づいた事で、自分に自信が持てるようになり、徐々に授業の質をレベルアップさせることができたと感じている。

教育実習は、思うようにいかない事ばかりである。不安でいっぱいだった教育実習だったが、新しい学びを沢山吸収し、特別な経験をする事ができたと感じている。教師という仕事のやりがいや｢良い授業｣をつくる事の奥深さなど､自分が教師側の立場を経験して、沢山の事を学ぶ事ができた。また、生徒との関わりでは、一人一人の特性や性格を理解する事の大切さを学んだ。１週目では、なかなか生徒と関わる事ができなかったが、生徒と一緒に過ごしていく中で、徐々に壁がなくなり、最後は別れを惜しむ事ができるまで、良い関係性が築く事ができ、心に残る経験ができたと感じている。大好きな母校で尊敬する先生方と一緒に過ごす事ができた２週間は、私にとってとても大切な宝物になった。この経験を次のステップに活かしていきたい。

今後の予定

【3 年生（1・2 年生の参加も可)】

教員採用試験合格体験報告会

2024 年 12 月 21 日（土）13：25～16：35

【1 年生】

教職課程オリエンテーション

2025 年 3 月 21 日（金）3・4 限　美浜キャンパス・東海キャンパス

教職課程登録期間　　2025 年　3 月下旬を予定